

# 目 次

## 第1編 自 然

第1章 町の形態 .....	3
1 位 置 .....	3
2 境 界 .....	3
3 面 積 .....	4
4 人 口 .....	4
(1) 明治以後の人口推移 .....	4
(2) 終戦前後の人口推移 .....	5
第2章 町の風土 .....	9
1 地 形 .....	9
(1) 山 系 .....	9
(2) 水 系 .....	10
(3) 海 岸 .....	10
(4) 地形の変遷 .....	11
2 地 質 .....	12
3 気 候 .....	13
(1) 気 温 .....	14
(2) 降 水 量 .....	15
(3) 天気・季節 .....	15
4 生 物 .....	16
(1) 植 物 .....	16
(2) 動 物 .....	19
5 鉱 物 .....	23
6 字 名 .....	24
7 自然災害 .....	28
(1) 台 風 .....	28
(2) 豪 雨 .....	34
(3) 干 ば つ .....	35
(4) 豪 雪 .....	37
(5) 地震と津波 .....	39

## 第2編 歴史

第1章 原 始	45
1 縄文時代	45
2 弥生時代	46
(1) 磯岡遺跡	46
3 古墳時代	47
第2章 古代・中世	49
1 宇和郡の成立と矢野郷	49
(1) 宇和郡の成立	49
(2) 矢野郷	50
2 条里制	50
3 荘園の発達	51
(1) 荘園の起源	51
(2) 池禪尼と矢野庄	51
4 平家谷伝説とその背景	54
5 橋氏と宇和郡	56
(1) 純友の乱	56
(2) 橋氏のこと	57
6 南北朝時代の矢野保	57
7 西園寺氏と宇和郡	58
8 戦国時代	59
(1) 戦乱の宇和郡	59
(2) 飯森城の戦い	61
(3) 城高城と大塚嵐之助	62
第3章 近 世	63
1 豊臣秀吉の四国征伐と領主の交替	63
2 太閤検地と喜木津浦検地帳	65
3 江戸幕府の成立	68
4 宇和島藩の成立と吉田藩分知	69
5 藩政時代の郷土の庄屋	70
6 宇和島藩の検地とくじ持制	72
7 宇和島藩の税制(貢租)	75

8 享保の大飢饉	76
9 百姓一揆	78
(1) 喜木津広早騒動	78
(2) 宮内騒動	79
10 幕末における宇和島藩	79
11 長州征伐と保内	80
第4章 近 代	82
1 明治維新と宇和島藩	82
2 廃藩置県と村の成立	83
3 青石農民騒動	84
4 無役地事件	85
(1) 無役地事件のおこり	85
(2) 宮内村事件	85
(3) 無役地事件の転換	87
5 地租改正	87
6 文明開化の風潮	89
7 明治の農村不況	90
8 成金ブームと農村不況(米騒動)	91
9 昭和初期の恐慌と保内	92
10 戦時体制	94
第5章 現 代	96
1 戦後の復興	96
2 町村合併	97

## 第3編 行政

第1章 藩政時代の行政	101
1 行政区画と地方行政組織	101
2 村方三役	102
(1) 庄屋	102
(2) 組頭	103
(3) 横目	103
3 五人組の制度と社会教化	103
4 人口と戸数	104

第2章 行政区画の変遷	105
1 明治初期	105
2 市制・町村制の公布	111
3 郡制	113
第3章 町村政時代	116
1 明治中期・後期	116
2 大正期	118
3 昭和前期	121
4 昭和後期(終戦以後)	124
第4章 保内町の誕生	132
1 合併促進協議会の設置	132
2 合併促進協議会の経過	134
3 合併の必要性和問題点	135
(1) 合併の動機と必要性	135
(2) 合併経過中の問題点	135
4 新町名と役場位置	136
(1) 新町名の決定	136
(2) 新役場位置の決定	136
5 保内4か町村合併協議書	136
6 合併申請と愛媛県告示第139号	139
7 新町建設計画	139
8 保内町の発足と発展	145
第5章 財政	168
1 赤字処理と地財法の適用	168
2 決算状況の推移	170
3 昭和46年度当初予算	172
4 町税	173
第6章 選挙	174
1 選挙制度の変遷	174
2 町長選挙	175
3 町会議員選挙	176
4 県議会議員(保内町出身者)	181

5 有権者と投票率の推移	182
第7章 治安と消防	185
1 治安	185
(1) 警察官署の配置	185
(2) 自治体警察川之石警察署	187
2 消防	188
(1) 保内町消防の組織	188
(2) ポンプと水利	194
(3) 保内町の火災記録	195
第8章 民生	197
1 社会福祉	197
(1) 戦前の社会福祉	197
(2) 社会福祉事業の動向	197
(3) 老人福祉	202
(4) 児童福祉	206
(5) 身体障害者福祉	211
(6) 母子福祉	212
(7) 引揚者・留守家族などの援護活動	214
(8) 生活保護	214
(9) 同和事業の推進	216
(10) 共同募金運動	217
2 国民健康保険	217
(1) 国民健康保険制度の実施	218
(2) 国保の再建と国民皆保険	218
(3) 国民健康保険の現状	219
3 国民年金	221
第9章 保健衛生	223
1 衛生	223
2 伝染病とその対策	224
(1) 痘そう	224
(2) ペスト	225
(3) コレラ	227

(4) 赤痢	229
3 新しい時代の保健衛生	230
(1) 母子保健	230
(2) 予防接種とポリオ予防	230
(3) 成人病対策	231
(4) 環境衛生の改善	232
4 医療機関	234
(1) 江戸時代の医師	234
(2) 近代的医療機関の発展	235
(3) 町立川之石病院	236
5 水道	237
(1) 水道施設の普及	237
(2) 水道の現況	238
(3) 上水道の一本化	239

#### 第4編 産業経済

第1章 産業経済の変遷	243
1 明治のころ	243
2 大正のころ	244
3 昭和のころ	244
第2章 産業人口分布	246
第3章 土地利用	249
1 耕地面積	249
2 農家と経営面積の変動	249
3 耕地整理	251
第4章 農業	255
1 藩政時代の農業	255
(1) 宇和島藩の農業政策	255
(2) 農民階層の固定化	256
(3) 農民の生活	257
2 農業の発展	258

(1) 榎樹栽培	258
(2) 養蚕業	261
(3) 米麦の栽培	263
(4) 果樹栽培	270
(5) 畜産	282
3 農業近代化と農政	284
(1) 自作農創設	284
(2) 農地改革	285
(3) 農地法と農業の合理化	287
(4) 農業振興計画	288
4 農業協同組合	292
(1) 喜須来青果農業協同組合	294
(2) 川之石農業協同組合	295
(3) 宮内青果農業協同組合	297
(4) 磯津青果農業協同組合	299

#### 第5章 林業

1 森林の現況	302
2 林道	304
3 宮内財産区有林	305
(1) 位置および地形	305
(2) 宮内財産区有林の沿革	305
(3) 宮内財産区有林の現況	308
4 林業団体	309
(1) 保内森林組合	309

#### 第6章 水産業

1 水産業の移り変わり	310
2 藩政時代の水産業	310
(1) 宇和海の漁業	310
(2) 伊予灘の漁業	312
(3) 漁民の生活	312
3 明治以後の水産業	314
(1) 宇和海の漁業	314
(2) 伊予灘の漁業	317
(3) その他の漁業	319

(4) 養殖業	320
(5) 漁獲物の販売	321
4 漁業法	321
(1) 明治の漁業法	321
(2) 現在の漁業法	322
5 漁港	323
(1) 喜木津漁港の沿革	323
(2) 磯崎漁港の沿革	323
(3) 川之石漁港の沿革	323
(4) 西町漁港の沿革	324
6 漁業の現状	324
7 水産業団体	326
(1) 漁業会	326
(2) 川之石漁業協同組合	326
(3) 磯津漁業協同組合	327
(4) 漁業協同組合の広域化・大型化	327
第7章 商工業	328
1 商業	328
(1) 藩政時代の商業	328
(2) 商業の移り変わり	329
(3) 現在の商業	330
(4) 保内町商工会	331
2 工業	332
(1) 工業の変遷	332
(2) 紡績業	333
(3) 蚕種業	340
(4) 製糸業	344
(5) 製蠟業	346
(6) 陶器製造業	348
(7) 製材業	350
(8) 食料品製造業	351
(9) 化学工業	353
(10) 工場の現状とその特色	354
第8章 鉱業	356

1 主要鉱山	357
(1) 大峯鉱山	357
(2) 柳谷鉱山	358
(3) 永坂鉱山	359
(4) 大内鉱山	360
(5) 金山鉱山	360
2 鉱業の現況	361
3 銅鉱製錬所と公害	361
(1) 佐島製錬所	362
(2) 佐島製錬所の煙害	362
第9章 金融	364
1 明治初期の金融事情	364
2 保内町における銀行の発展	365
(1) 第29国立銀行(愛媛県で初めての銀行)	365
(2) 実業銀行	371
(3) 漸成銀行	372
(4) 銀行合同	372
3 現在の金融機関	374
第10章 交通・通信・電気	375
1 交通	375
(1) 陸上交通	376
(2) 海上交通	387
(3) 海運業	391
2 通信	393
(1) 近代郵便のおこり	393
(2) 保内町における明治期の郵便事情	394
(3) 保内町の郵便局	395
(4) 保内における電信・電話	397
3 電気と電波	398
(1) 電気	398
(2) 電波	399
第5編 教育	
第1章 学校教育	405

1 明治維新以前の教育	405
(1) 藩政時代の教育	405
(2) 寺子屋・私塾	406
2 明治の教育	408
(1) 明治初期の教育	408
(2) 明治中期の教育	416
(3) 明治30年代の教育	422
(4) 明治後期の教育	425
3 大正・昭和初期の教育	427
(1) 小学校教育の発展	427
(2) 市町村の教育財政	427
(3) 入学試験の激化	428
4 戦時教育	429
(1) 皇国教育の展開	429
(2) 国民学校の発足	431
(3) 不自由な学校生活	432
(4) 戦時下の教育事情	433
(5) 町立川之石高等実科女学校	433
5 戦後の教育	436
(1) 新しい教育体制	436
(2) 新制中学校の発足	436
(3) 教育課程の変遷と改善	437
(4) P T Aの発足と発展	438
(5) 学校給食	439
6 町内の学校沿革	440
(1) 喜須来小学校	440
(2) 川之石小学校	442
(3) 宮内小学校	443
(4) 磯崎小学校	445
(5) 喜木津小学校	446
(6) 川之石中学校	448
(7) 宮内中学校	449
(8) 磯津中学校	450
(9) 青石中学校	452
(10) 愛媛県立川之石高等学校	453

第2章 社会教育	456
1 初期の社会教育	456
(1) 青年会・処女会の設立と夜学会	457
(2) 実業補習学校	459
(3) 青年訓練所	461
(4) 青年学校の発足	461
2 社会教育の発展	464
(1) 社会教育振興の背景	464
(2) 公民館運動の展開	465
(3) 視聴覚教育の発達	466
(4) 青年教育	467
(5) 婦人教育	470
3 社会体育	473
(1) 社会体育の振興	473
(2) 体育関係機関の誕生と活動	475
第3章 教育委員会	477
1 教育委員会の発足	477
2 教育委員	478
第6編 民俗文化	
第1章 衣食住	483
1 衣について	483
2 食について	484
3 住について	485
第2章 慣習・年中行事	487
1 慣習	487
(1) 出生	487
(2) 結婚式	487
(3) 厄年	488
(4) 葬式・法要	488
(5) その他	488
2 年中行事	488



第3章 民 話	494
1 亀岩のこと	494
2 立神様の恋の話	494
3 平家谷の白鷺	496
4 ベスト騒動	497
5 龍潭寺の三名僧 (その一)	498
6 龍潭寺の三名僧 (その二)	499
7 龍潭寺の三名僧 (その三)	500
8 須川・神越の地名の由来	501
9 六部さんの祠のこと	502
10 元旦にかける首のない白馬	502
11 エンコの尻ぬき	503
12 蝮の毒を抜く話	504
13 とで増さん (その一)	504
14 とで増さん (その二)	505
15 縮緬の禪	506
16 おてしお一杯	506
17 めでたい話	506
18 福助のノゾキメガネ	507
第4章 民 謡	511
第5章 俗信・俗語	518
1 天文・地理	518
2 生活・行事	519
3 動物・植物	521
4 その他・格言めいたものなど	521
第6章 方 言	524
1 方言事例	525
(1) 語 法	525
(2) 用 語	527
(3) 植 物	531
(4) 動 物	532
第7章 文 化 財	533

1 彫 刻	533
(1) 懸仏一面	533
(2) 神像5軀	533
(3) 神像2軀	534
(4) 高德寺宝篋印塔3基	535
(5) 磯崎の石造美術	536
2 古 文 書	536
(1) 日通上人筆曼陀羅一軸	536
3 工 芸	537
(1) 陶 器	537
(2) 鉄砲鍛冶	537
4 郷土芸能	538
(1) 和田町の唐獅子舞	538
(2) 大竹の五ツ鹿	540
(3) 楠町の相撲ねり	540
5 史 跡	542
(1) 二宮敬作出生地跡	542
6 城 跡	543
(1) 城高城跡	544
(2) 飯森城跡	544
(3) 今 城 跡	544
(4) 磯崎城跡	545
(5) 里 城 跡	545
(6) 時貞城跡	545
7 天然記念物	546
(1) 平家谷自然林	546
第8章 宗 教	547
1 神 社	547
(1) 神社の変遷	547
(2) 三島神社	549
(3) 新田神社	550
(4) 金刀比羅神社	551
(5) 八幡神社	551
(6) 客神社(磯崎)	552

(7) 八坂神社	553
(8) 客神社(広早)	554
(9) 客神社(夢永)	554
(10) 八幡森神社	554
2 寺院	555
(1) 寺院の変遷	555
(2) 真願寺	556
(3) 常昌寺	557
(4) 龍潭寺	557
(5) 高德寺	559
(6) 通玄寺	559
(7) 楞巖寺	560
(8) 禪通寺	560
(9) 法眼院	561
(10) 光明寺	561
3 教派神道・その他	562
(1) 日本キリスト教団保内教会	562
(2) 黒住教喜木教会所	562
(3) 金光教川之石教会	562
(4) 天理教保内分教会	563
(5) 天理教愛西分教会	563
(6) 天理教川之石分教会	564
(7) 天理教恩愛分教会	564
(8) その他	565
第9章 観光	566
1 平家谷自然公園	566
2 琴平公園	566
3 三島神社	567
4 龍潭寺	568
5 住吉鼻	568
6 夢永海水浴場	568
7 神越児童公園	569
8 川之石の潮干狩	569

第7編 兵 事

第1章 兵事制度の移り変わり	573
1 徴兵制の創始	573
2 徴兵検査	574
3 郷土兵士の管轄	574
4 歩兵第22連隊(松山)の誕生	575
(1) 歩兵第22連隊のあゆみ	575
(2) 酒保(隊内売店)の開設	577
第2章 戦争と保内	578
1 西南の役と保内	578
2 日清戦争と保内	578
3 日露戦争と保内	579
(1) 当時の町の表情	579
(2) 戦役記念碑	580
4 第一次世界大戦	581
5 満州事変	582
6 第二次世界大戦	582
(1) 太平洋戦争	583
(2) 空襲による保内地域の被害	583
(3) 義勇隊の編成	584
(4) 戦時中の生活事情	585
7 保内町の戦没者と忠霊塔	585
(1) 各戦役の戦没者	585
(2) 忠霊塔	603
8 思い出の歌	604
第8編 官公庁・諸団体	609
第9編 人 物	627
付録 保内町における「無役地事件」	645
保内町年表	667

題 字 保内町長 須藤 巖 中扉カット 楠井 岑昌  
懸仏(宮内三島神社所蔵)